

松末で学生実習

九州大学 芸術工学部 環境設計学科



会場となった大橋キャンパス2号館

朝倉市

松末復興かわら版

環境系学生巡検

6月13日
松末小学校周辺の再開発に
若いアイデア募る

学生ら30名が松末地域集落支援員より地域の実情を聞く。撮影6/13

6月13日（水）午後、九州大学大学院芸術工学研究院環境設計学科（朝廣和夫准教授、他）と熊本県立大学環境共生学部居住環境学科（柴田祐准教授）の教員学生30数名が九大のバスで現地入りし、松末小学校周辺の視察を実施した。この視察は環境設計（建築、地域計画、景観等）を学ぶ4年生が設計演習の一環として、松末小学校・サイレン山周辺の復興デザインを課題とし、最初の現地調査

6月13日（水）午後、九

一行は松末小学校門前の旧道から小学校に入り、赤谷川・乙石川合流点で今回の災害について三谷泰浩教授から説明を受けたあと、校庭で希望の塔を見学し、旧職員室で災害当時の説明を受けた。

乙石川沿いでは、河床に残るプール跡からかつての乙石川の川筋の移動量や今回の洪水でサイレン山裾に露出した過去の

層を確認した後に、集落支援員から松末の現状などについて説明を受けた。乙石川から移動し保育所で休園の経緯について説明を受け、赤谷川ではよかだ橋の遺構から河道の変化、河川の応急復旧工事の様子を視察した。また乙石川の河道をサイレン山を通す案も住民から出ていることなどの説明を受けた。

今後、学生たちはグループに分かれ課題の整理、シナリオの検討を行い、7月下旬まで建築、まちづくりを中心に復興デザイン案を検討する。

7月24日からは、香港高等教育科技学院の景観デザイン教員2名、学生11名と合流し、緑化の視点から、デザイン案を再考し、8月上旬までに取りまとめる予定である。これらの中で優秀なもの、集落会議および町づくり協議会などで提案される予定である。

講座を担当している朝廣准教授は「将来を担う学生が、被災の現場に触れることは教育として大切だ。若者から復興に資するアイデアが出てくるよう指導してゆきたい。少しでも地域の復興に貢献したい。」と話している。

7月24日
香港高等教育科技学院
九大学生と松末で復興デザイン演習

造園緑地の専門学生は、樹木の位置、サイズ、樹種名周辺の植生、地形の変化について観察した。撮影7/24



九大の学生が緑地の改善作業のために6月より1カ月半取り組んだ復興計画案を香港の学生に発表する。撮影7/25

7月24日（火）から4日間の日程で、香港高等教育科技学院の造園緑地の学生11名と指導教員2名が九大の招きで来日し、昨年7月の九州北部豪雨で被災した朝倉市松末小近郊の復興地域計画の実習を行った。

初日から午後松末小学校周辺を2時間にわたり災害の現状を見学した。二日目午前6月から同演習を開始している環境設計学科4年生の発表を聞いた。香港と九大の学生は4班に別れ、河川・緑地景観の復旧、小学校の利活用、魅力の強化、記憶の継承、平時の災害への備え、非常時の利用、歩行路動線、水害に強い植栽について、三日目、終日作業。四日目最終日は、作業と各班の発表で終了した。発表会には他の教員も参加し熱心な討議が行われた。（記載のない写真撮影7/27）



発表直前に3班のPCが固まり、データが失われたかと心配されたが、無事に回復し歓声が上がる。



会話は全部英語で、1班の男子学生が英語が苦手だったので、2班配属の女子学生が助っ人通訳している。



香港の先生方と打合せする朝廣准教授



「観光」が課題の班は校舎を東屋に再利用



「新しい景観をつくる」という課題で作られた1班の構想案の一部。



発表のあとには担当外の教員から発案の経緯などについて、細部にわたり質問がある。学生たちはこれで鍛えられる。



若い学生が被災地に立ち、復興を考える意義を話す朝廣准教授。

今後集落支援の一環として、調査研究が継続される予定である。

と述べた。

今後について

演習終了後、「本演習の実施にあたり、朝廣准教授は「行政の復興計画が定まらず、被災した方々が長期的な避難生活の中にある状況で、本演習の実施に不適切な面があったと考えています。しかしながら、このような度重なる被災から、どのような村や環境を復興していくのかを今後自治体や設計事務所等が構想し、10年後、20年後の未来を考えることは重要です。アジアでは各国で災害が頻発しており、将来の相互連携を考えています。松末の皆様には恐縮ですが、若者の発想には興味深い点もあり、表現内容は、演習の成果として受け止めていただければ幸いです。」と述べた。